第 1 章
奉仕

A. はじめに

1. **奉仕への決意。**個々のライオンズクラブおよびレオクラブは、その時間、才能、発言力、そして様々なリソースを活用することにより、その地域の福利を全体的に向上させるべくボランティア活動をおこない、地域の人道的ニーズに取り組む。~~人々およびさまざまな資源を動員して、実地参加型の奉仕を行いその地域の福利を全体的に向上させることにより、地域の人道的ニーズに取り組むためボランティア活動を行う。~~ライオンズクラブとレオクラブ、地区、複合地区、また、ライオンズの管理下にある団体/財団の取り組みおよび貢献は、総合すれば、グローバル開発アジェンダを前進させ、現代の人間を苦しめている最も深刻な問題のいくつかに取り組む可能性を持っている。そのために、ライオンズクラブ国際協会は、戦略的、包括的、かつ測定可能な奉仕の機会の開発および支援を通じて、ライオンズとレオを結び付け差し迫った世界規模の課題に立ち向かうことに尽力している。

2. **ビジョン声明文。**地域社会と人道奉仕におけるグローバル・リーダーを目指す。

3. **使命声明文**。ライオンズクラブを通じて、ボランティアに社会奉仕の手段を与え、人道的ニーズを満たし、平和と国際理解を育む。

B. 定義

1. **奉仕エンゲージメントモデル~~フレームワーク~~**。アドボカシー、奉仕活動、資金獲得、寄付を行うことを含め、ライオンズがその受益者に提供する奉仕の包括的な構造。~~奉仕の焦点とインパクトを強化するために組織が資源を投入する中心的な分野のプラットフォームから成る~~包括的な奉仕の構造。

2. **グローバル重点分野~~奉仕プラットフォーム~~**。特定された目標と、その目標達成に向け実行する具体的な戦略を持つ奉仕の中心的分野。これらの戦略~~奉仕プラットフォーム~~には、国際協会の各種奉仕プログラム~~主要奉仕事業~~、LCIF 援助交付金、アドボカシーの機会、奉仕が及ぼす影響を高める戦略的パートナーシップが含まれるがそれだけに限定されない。

3. **国際協会の各種奉仕プログラム~~主要奉仕事業~~**。ライオンズクラブおよびレオクラブ、地区、複合地区、ならびに具体的な奉仕の成果やインパクトを目指して~~特定の奉仕プラットフォームの目標達成に向け~~貢献するライオンズの管理下にある組織/財団のために、ライオンズクラブ国際協会が開発・支援する組織的なプログラム。

~~4. **プログラム企画における特別な配慮事項**。主要奉仕事業はすべて、奉仕プラットフォームを問わず、児童および青少年を参加させ、彼らに利をもたらす要素を含むものでなければならない。~~

4. **主要奉仕活動奉仕事業**。ライオンズクラブやレオクラブが特定した各地域社会のニーズに対応し、かつ時間、人的・物的資源、現地クラブの専門知識に応じて開発されるアクティビティ。~~事業はライオンズクラブ国際協会とは独立して支援される。~~

C. グローバル重点分野~~奉仕フレームワーク~~

1. 国際協会のグローバル重点分野には以下が含まれる。~~奉仕フレームワークとして、下記の奉仕プラットフォームを挙げる。~~

   a. 糖尿病
   b. 環境
   c. 視力
   d. 小児がん
   e. 食料支援・飢餓

2. **児童・青少年**。児童や青少年は、グローバル重点分野の一つとして具体的に挙げられていないものの、ライオンズ、またライオンズとともに奉仕するパートナーによる奉仕の重要な受益者として見なされる。~~児童と青少年を対象および主体とする特別なプログラム要素が開発される。~~

~~3. **奉仕プラットフォーム**。各奉仕プラットフォームの具体的な目標と主要奉仕事業に関する情報は、「奉仕フレームワークガイドブック」に掲載されている。~~

4. **実施期間**。グローバル重点分野~~奉仕フレームワークおよびプラットフォーム~~は、2017 年 7 月の発表後早くても 5 年後、遅くとも 10 年以内に再検討される。

D. 国際協会奉仕プログラム~~主要奉仕事業~~の評価

1. **時期**。ライオンズクラブ国際協会の各種奉仕プログラム~~主要奉仕事業~~はすべて、その発表後早くて 2 年後、遅くとも 3 年以内に評価される必要がある。その後は継続的に必要に応じて、奉仕事業委員会の指示に従い行われるべきである。

2. **考慮すべき点**。評価、そしてその結果としての理事会への提言は、下記（ただしそれらに限定されない）を考慮したものでなければならない。

   a. 国別、会則地域別、世界全体の参加クラブ、地区、複合地区の数
   b. 設定された目標への進展状況

c. 資源投入から得られたクラブ、地区、複合地区、ライオンズ組織/財団、そしてライオンズクラブ国際協会への実質的見返り
d. 資源投入から得られたクラブ、地区、複合地区、ライオンズ組織/財団、そしてライオンズクラブ国際協会への感覚的見返り
e. 導入に関連した会員増強状況
f. 同じグローバル重点分野~~奉仕プラットフォーム~~における他の組織の活動
g. 一般社会の反応

E. 新しい国際協会奉仕プログラム~~主要奉仕事業案~~

1. 検討機関。国際協会の新たな奉仕プログラム~~主要奉仕事業~~案は、奉仕事業委員会が理事会会期中に検討する。

2. 考慮すべき点。案の検討、およびその結果による提言には、下記を考慮するべきである（ただし、これらに限定されない）。

a. LCI フォーワードおよびグローバル重点分野~~奉仕フレームワーク~~との整合性
b. 各会則地域での適用の可否
c. 開発と導入に必要となる資源（スタッフ、資金、その他）および時間
d. 同じ分野における他の組織の活動・取り組み
e. 寄付や会費収入増加の可能性

3. 実施期間。承認を得るため奉仕事業委員会が理事会に推奨する案は、当初は 2 年から 3 年の期間の試験的プログラムとして実施される。その後は、ライオンズクラブ国際協会のプログラム~~承認を受けた主要奉仕事業~~として正式に採用される前に、さらなる検討の対象となる。